

9 月 議 会 報 告



湖城 宣子 議員

1. 市民への情報発信について

広報おうめや市ホームページの改善案、防災無線を活用した情報発信について質問し、前向きな答弁を得ました。

2. 子育てと介護の「ダブルケア」に支援策を

市役所内の連携、ダブルケア周知について質問し「複数の部署にかかる相談については、関係部署で連携し、対応している。今後市ホームページや子育てアプリでの周知、パンフレットの配布等を行っていく」とのことでした。

湖城のぶこの実績が 公明新聞で紹介されました！

新型コロナウイルスの感染予防対策の一環として、東京都青梅市は現在、食料品や日用品の買い物を1回300円で代行するサービスを

実施している。期間は来年3月末まで。高齢者、障がい者、妊産婦のいる世帯を対象とし、財源は国の地方創生臨時交付金で賄う。

＜＜＜＜＜ 高齢者、障がい者、妊産婦 ＞＞＞＞＞

買い物代行 1回300円

東京・青梅市

食料品、日用品が対象



買い物代行サービスを利用した西さん②と懇談する湖城市議員



市の担当者から説明を受ける市議会公明党のメンバー（右側5人）

買い物代行サービスは、青梅市内在住の75歳以上のみの高齢者世帯と、身体障害者手帳2級以上などの基準を満たす障がい者のいる世帯、妊娠中か今年出産した人がいる世帯を対象とする。市は8月末までに、対象となる約1万1000世帯に、案内と10回分の利用券を配布。それ以降に妊娠届を提出した人や満75歳を迎えた高齢者世帯には順次、利用券を配布している。利用方法は簡単。市が委託した事業者は、原則、前日までに電話やファックスで、購入先や希望する商品名、必要な量などを具体的に伝える。注文できるのは食料品や日用品のみ。1回につき1万円以内、購入先を市内3カ所までとする。商品も条件となっている。商品は自宅で受け取り、注文したものと同じでない商品が混入することはない。市は「初めて買い物代行サービスを利用した西さん②は「コメをはじめ、約10種注文した。重たい荷物を持って移動するのは一苦労。大変に助かった」とニコリ。「事業者の方が利用方法を丁寧に説明してくれたおかげで、安心感があつた。また利用したい」と話していた。

電話やファクスで簡単に注文

野島幹事長は「コロナ禍の中のみならず、買い物弱者への継続的な支援に取り組んでいく」と語った。

東京都の面積の約5%を占める青梅市では、山間部を中心に公共交通機関が不便だったり、自宅の近くにスーパーがなかったりと買い物に不便な地域がある。同市の高齢化率も30%を超えており、買い物弱者への支援強化は喫緊の課題だ。市議会公明党（野島資雄幹事長）は買い物弱者への支援策を一貫して推進してきた。鴻井伸二議員は2010年9月定例会で、官民が協力して宅配サービスや移動販売の充実を図るよう提言。湖城宣子議員も17年9月定例会で、移動販売を行う事業者への補助などを求めている。

東京の面積の約5%を占める青梅市では、山間部を中心に公共交通機関が不便だったり、自宅の近くにスーパーがなかったりと買い物に不便な地域がある。同市の高齢化率も30%を超えており、買い物弱者への支援強化は喫緊の課題だ。市議会公明党（野島資雄幹事長）は買い物弱者への支援策を一貫して推進してきた。鴻井伸二議員は2010年9月定例会で、官民が協力して宅配サービスや移動販売の充実を図るよう提言。湖城宣子議員も17年9月定例会で、移動販売を行う事業者への補助などを求めている。